

2023 年度

# 大学生と集落の協働による地域活性化事業 実態調査報告書

受入集落：田人地区（いわき市）



— 目 次 —

1. はじめに	3
1.1 本報告書の概要	3
1.2 背景	3
1.3 活動団体の概要	3
1.4 参加の動機	3
1.5 参加者	4
(1) 実施者	4
(2) 指導者	4
1.6 受け入れ体制について	4
2. 田人地区について	5
2.1 地区概要	5
2.2 人口	5
2.3 歴史	5
2.4 産業	6
2.5 暮らし	6
(1) 生活環境	6
(2) 教育	6
(3) 交通	6
(4) 行事	7
3. 実態調査報告	8
3.1 活動スケジュール	8
3.2 実態調査詳細	9
(1) 第1回訪問（2023年9月17日）	9
(2) 第2回訪問（2023年11月6日）	12
(3) 第3回訪問（2023年11月26日）	13
(4) 受け入れ代表者の方とのMTG	14
(5) アンケート調査について	16
4. 調査結果	17
4.1 調査結果	17
A) アンケートA・Bの共通項目	17
B) アンケートAのみの項目	18
5. 調査分析	25
5.1 ブレーンストーミング	25
5.2 SWOT分析	27
(1) 田人地区の「強み」	27
(2) 田人地区の「弱み」	27
(3) 田人地区の「機会」	27

(4) 田人地区の「脅威」 .....	27
5.3 方針案の提示（実態調査から得られた活性化策の効果及び改善点） .....	28
(1) FC 制度 .....	28
(2) ワーキングスペースの提供 .....	28
(3) 基盤となる環境の構築 .....	29
(4) その他.....	29
6. 調査のまとめ .....	30
6.1 感想.....	30
6.2 来年度に向けて .....	31
6.3 謝辞.....	31
7. 資料.....	32
8. 参考文献 .....	39

## 1. はじめに

### 1.1 本報告書の概要

本報告書では、対象地域である、いわき市田人地区における実態調査及び考察について記した。

### 1.2 背景

人口減少や高齢化が進む地域において、高齢化や若者流出により地域活動の担い手不足が深刻化しており、地域住民だけでは集落の維持や再生が困難となることが憂慮されている現状がある。そうした中、福島県では新しい視点や行動力、専門知識などの『外からの力』を持つ大学生と集落が交流することで、地域の復興・活性化を図り、集落の応援団（サポーター）を育成することを目的とし、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」を実施しており、本団体はその事業の採択・委託を受け、本活動に至っている。

### 1.3 活動団体の概要

本団体は2014年に設立し、東日本大震災からの復興に繋がりたいという思いから、人と人、豊かな自然とのつながりに着目して、福島県いわき市勿来地区において活動を行っており、2023年度現在、75名が参加している。

東日本大震災直後の活動では、復興を目的に岩間防災緑地の整備など、防災や復興公営住宅の人と地域住民の交流を行ってきた。しかし、元の状態に戻すことが「復興」だと定義するならば、11年が経過した今現状達成しているものだと考え、現在では、まちの活性化に貢献すべく、NPO法人や地域住民、専門家など、様々な立場の方々と協力をしながら取り組んでいる。

### 1.4 参加の動機

本事業への参加の動機としては、当団体の活動の経験が、様々な問題を抱えつつも多様な資源や魅力を有する集落の復興においても、活かすことができるのではないかと考えたとともに、新たな地域での取り組みからその活動範囲を広げることによって、団体としての福島県とその地域への関与や貢献を強化していきたいと考えたためである。加えて、私たちの団体は、即自的な活動にとどまらない専門的な活動の展開を課題として、大学教員の指導のもとで調査活動に取り組むことが新たな学びともなり、本事業地区や勿来地区など、継続的、発展的に福島県の地域活性化へ貢献ができる団体へと成長していきたいという動機があった。

## 1.5 参加者

### (1) 実施者

実施者は、芝浦工業大学の学生ボランティア団体、「笑顔のまち なこそプロジェクト」に所属する学生 13 名（2 年 6 名，1 年 7 名）により構成されている。

### (2) 指導者

指導教員（責任者）は、当団体が所属する芝浦工業大学の特任教授が担った。

指導教員については、地域活性化やまちづくり，都市や地域，建築の計画・デザインを専門として，都市部や郊外，離島における実務に携わってきた。近年では，防災を念頭においた都市計画や空間計画，施設計画の研究・学生指導にも取り組んでいる。

## 1.6 受け入れ体制について

田人地区での受け入れ代表者として，田人里山再生委員会の事務局の方が迎えて下さった。主に，地域活動を行う上での関係づくりやアンケート実施のための機会提供，意見交換などで協力していただいた。

## 2. 田人地区について

### 2.1 地区概要

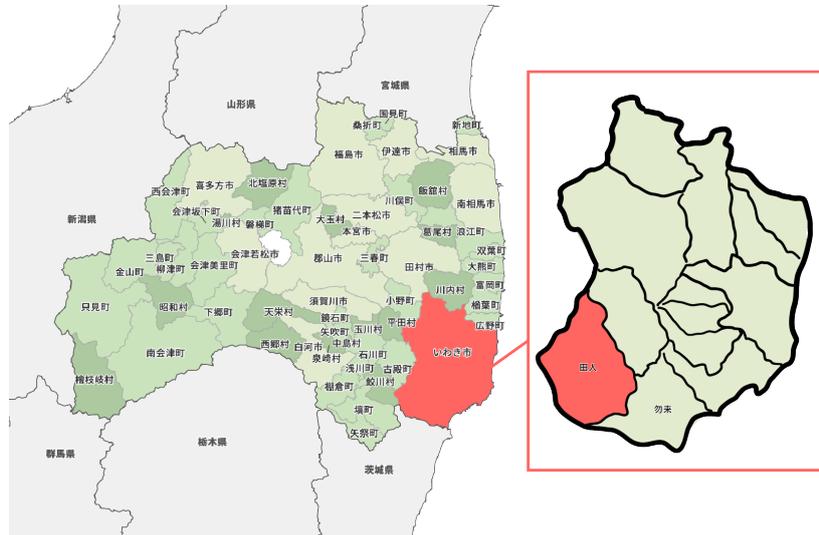


図1 田人地区の位置 (Map-it を使用)

福島県いわき市田人地区は、市の南部に位置し、南東を勿来地区と北茨城市、西北を鮫川村と古殿町に接する。(図1を参照) 地勢は急峻で山岳が全体に連なり、起伏が多く、平地は鮫川・荷路夫側・四時川とその支流の流域にあるが、耕地は少ない。産業は林業や畜産業などが盛んであった。また、気候は年平均気温 11～15℃前後で、年間降水量は 800～2,000mmと少なく、積雪は年1～2回程度で県内でも比較的温暖で過ごしやすい地域である。一方で、山に囲まれているため、土砂災害が起こる危険性が高く、注意が必要である。

### 2.2 人口

田人地区の人口は、令和5年12月時点で1,246人(うち男:628人 女:618人)、世帯数は545世帯である。震災前の平成20年頃は、Iターン移住者が多くあったが、近年では人口減少が続き、深刻な問題となっている。昭和後期には4,000人近くいた人口が、現在は3分の1以下となっている。また、少子高齢化も深刻化しており、高齢化率は、令和2年4月時点で49.2%といわき市の中で最も高い結果となっている。

### 2.3 歴史

明治6年入旅人村・出旅人村が合併し旅人村、明治8年上黒田村・下黒田村が合併し黒田村、明治22年町村制実施に伴い、南大平村・旅人村・黒田村が合併し田人村になり、その後昭和41年に大規模合併し、いわき市田人町となった。

## 2.4 産業

農業や林業は田人産の木材を使った製品の販売や地元野菜の販売などを行っているが、衰退傾向である。かつては、炭鉱やこんにやくで栄えた町であったが、炭鉱は廃止され、こんにやくの生産も衰退した。観光業では、自然を生かした観光がメインであるが、田人町は山が多く観光スポットや飲食店などを出店できるエリアが限られている。少子高齢化により、どの産業においても後継者不足が深刻化している。また、働ける場所が少ないことも問題となっている。

## 2.5 暮らし

### (1) 生活環境

田人町の生活上の課題として、交通便の悪さ、鳥獣被害、インターネット環境の悪さなどがあげられる。また、田人町内ではスーパーがなく食料品を売っている場所も少ないため、多くの住民は町外に自家用車で買い物に赴く。田人町唯一の医療機関は公民館に隣接する診療所のみである。これらの理由から生活環境を不自由に感じている住民も多い。

### (2) 教育

田人町には田人町唯一の田人保育所があり幼稚園はない。平成26年度に小中一貫教育推進校に指定された田人小・中学校がある。家庭・学校・地域が協力するコミュニティスクールである。小学校で4クラス計31名、中学校で3クラス計23名の54名の学校である。

### (3) 交通

田人町では駅や路線バスが通っておらず基本は車移動である。車で常磐自動車道いわき勿来ICまで約10分、勿来駅まで約20分となっている。田人町のみならずいわき市全体で移動手段に関する課題がある。いわき市は市街地域において人口密度に対して多くの二酸化炭素を排出している。また、公共交通機関の衰退により移動手段の70%がマイカー移動であるため移動制約者が年々増加している。そこで田人町では地域住民組織が主体となり平成29年度から住民ボランティアで乗り合いタクシーの運行を行っている。(写真1を参照)一方で、ボランティアの高齢化や人手不足などの問題に直面している。



写真1 乗り合いタクシーの外観

#### (4) 行事

##### (a) たびとほっこり祭

11月末に開催され、田人地区の農家による地場産品や新鮮野菜等の販売が行われる「軽トラバザール」や田人中学校の生徒による「田人太鼓」などが行われる。

##### (b) ほたる祭り

6月末に開催され、山に囲まれ綺麗な川が流れる自然豊かな田人町だからこそ見られる幻想的な風景を楽しめる。また、同時開催の「田人うまいもん屋台」では、美味しいものを堪能できる。

##### (c) 酉小屋

いわき地方に伝わる小正月行事で、例年1月7日に行われる。藁や竹などで小屋を建て、お正月飾りや古い御札と共に燃やし、一年の無病息災を祈念する。荷路夫地区では一度は廃れてしまったものの、若者へ伝統を継承するために復活がなされた。

### 3. 実態調査報告

#### 3.1 活動スケジュール

以下に、本プロジェクトの活動スケジュールについて記す。

現地における活動は、全3回行なった。

第1回現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田人地区の各スポット散策</li> <li>・ 「田人ぶどう研究所」にて「2023 ワインぶどう収穫体験」への参加</li> </ul>
第2回現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田人地区の各スポット散策</li> <li>・ 地域や田人支所の方へのインタビュー</li> </ul>
第3回現地調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たびとほっこり祭への参加とインタビュー，アンケート調査</li> <li>・ 「田人おふくろの宿」へのアンケート設置</li> </ul>

ミーティングは、受け入れ代表者の方を交えたミーティングを含め、全16回行なった。

2023/07/25	メンバーミーティング (指導教員含む)	・ キックオフミーティング
2023/08/08	メンバーミーティング (指導教員含む)	・ 各人による情報収集に関する共有 (田人町の年齢層・気候・風土・文化など)
2023/08/19	メンバーミーティング (指導教員含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報収集の詳細な探究</li> <li>・ 予算審議</li> </ul>
2023/08/20	受け入れ代表者の方を交えたミーティング	・ キックオフミーティング
2023/08/22	メンバーミーティング (指導教員含む)	・ 予算審議
2023/09/04	メンバーミーティング	・ 第1回現地調査に向けた検討
2023/09/28	メンバーミーティング (指導教員含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回現地調査についての共有と内省</li> <li>・ 第1回調査結果の分析 (BS法を用いた)</li> </ul>
2023/10/12	メンバーミーティング (指導教員含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回現地調査に向けた検討</li> <li>・ 第1回調査結果の結果 (SWOT分析を用いた)</li> </ul>
2023/10/19	メンバーミーティング (指導教員含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査報告におけるコンセプト決め</li> <li>・ 現地で行うアンケート及びインタビュー項目の検討</li> </ul>
2023/11/02	メンバーミーティング	・ 第2回現地調査における日程の決定
2023/11/09	メンバーミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回現地調査についての共有と内省</li> <li>・ 第3回現地調査に向けた検討</li> <li>・ アンケートの作成</li> </ul>

2023/11/13	受け入れ代表者の方を交えたミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 3 回現地調査に向けた調整</li> <li>・ 現地で行うアンケートの項目についてのフィードバック</li> <li>・ アンケートの作成</li> </ul>
2023/11/23	メンバーミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート設置場所についての協議</li> <li>・ 報告書作成に向けた検討</li> </ul>
2023/12/21	メンバーミーティング (指導教員含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告書作成に向けた検討</li> <li>・ 報告書作成の進捗状況の共有</li> </ul>
2023/12/26	受け入れ代表者の方を交えたミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートの回答状況の共有</li> <li>・ 調査結果の分析と今後に向けた提案の検討</li> </ul>
2024/1/6	メンバーミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査結果の分析と今後に向けた提案の検討</li> </ul>

### 3.2 実態調査詳細

#### (1) 第 1 回訪問 (2023 年 9 月 17 日)

本訪問では、田人ぶどう研究所のワインぶどう収穫体験への参加と田人地区の散策を行った。

ワインぶどう収穫体験では、収穫に加えて、熟していない実をはじくなどの選定作業を同時に行ったこともあり、想像以上の大変さであった。私たち学生を含め、全体で 15 人ほどのボランティアの方が協力して作業を進めたが、そのボランティアの方の中には、地元に着を持ち、関東で働いた後に U ターンしてきた方や高速バスを利用して田人地区に活動に来ている方がいらっした。(写真 2・3 を参照)

今回、収穫体験の場となった畑を管理している方は、3 年間山梨でワインの修行を行った後、田人地区と久之浜地区の遊休地を自ら開墾・整備したという。使用している農薬にもこだわりがあり、化学薬品ではなく、いわき市内の有限会社木紅木が造る「キクノール」という木酢を使っているそう。

また、別のメンバーについては田人地区を知るために、当地区にある観光スポット、宿泊施設など人が集まる場所に向かい、お話しを伺った。(写真 4・5・6・7 を参照)

田人ぶどう研究所  
2023 ワインぶどう収穫体験のお知らせ

9月17日(日) 田人 Commitment VINEYARDS  
場所 いわき市田人町男田手大沢51 定員50名  
9月18日(祝) 久之浜 ACHIEVEMENT VINEYARDS  
場所 いわき市久之浜本郷字鎌倉49 定員30名

参加費：無料



作業終了後は ささやかな昼食をご用意いたします。

※ 万が一アレルギーが発生しても、当産園では一切の責任は負いかねますのでご理解ください。

お願い

作業着はスズメバチ対策を含めて白系統で露出の少ないタイプを推奨します  
8時に集まれる方は鳥獣害対策の不織布を取り外したり収穫コンテナを  
畑に振り分ける作業を手伝ってもらえると助かります。  
遠方からお越しの方も居るので全体ミーティングは9時に行います。  
役割分担確認し順次作業にはいります。天候を含め急な変更が多々あるか  
もしれませんがその場合は所長の指示に従ってください。

写真2 収穫体験のチラシ



写真3 収穫体験の様子



写真4 収穫予定のぶどう



写真5 田人地区の自然を体感



写真6 HITO-TABI でランチ



写真7 田人地区にある水車を視察

なお、本訪問については、指導教員が同伴し、受け入れ代表者の方との顔合わせと意見交換なども同時に行なった。

(2) 第2回訪問（2023年11月6日）

本訪問では、作成したアンケート用紙（資料[2]を参照）を参考にしながら、田人地区の店舗や施設を巡り、インタビュー調査を行なった。詳細としては、11時から田人支所にて、支所長と地域振興員の方に1時間程度お話を伺ったのち、二手にわかれて、4時間ほど地域の方々にインタビューを行なった。（写真8・9を参照）



写真8 支所長と振興課の方と対談



写真9 磐城高箸さんを訪問

以下に、地域の方々へのインタビュー結果を抜粋したものを以下に提示する。（表1を参照）

表1 田人地区の方々へのインタビュー結果

田人の魅力	人のやさしさ・温かくて落ち着いた雰囲気 住民同士の距離が近くお互い助け合える・自然豊か お年寄りが元気・道路が綺麗
田人の弱み	移住する人が多い・働き口が少ない・若者が少ない・遊ぶ場所がない 土地を売る人が少ない・空き家多い・アクセスが不便・JAの支店廃止
田人の将来	限界集落・若者がいなくなるのではないかな？ 避暑地になり人口増加するのではないかな？ 軽井沢のようにリゾート化するのではないかな？
田人の特徴	都会に憧れがある・市外県外からの観光客・湧水がきれいだった 外から来た人に対して排他的・年寄りの固い思考がある
人々の願望	将来ほかでやっていないことやってほしい 学生を受け入れる人が増えてほしい Iターン、Uターンの人が増えてほしい 今の高齢者の思いを引き継いでほしい 50年後海面上昇の影響で田人に人が来るのでは？
人々の不安	変に町おこしにお金を使いすぎて予算不足が心配 田人の子供たちのコミュニケーション能力

### (3) 第3回訪問（2023年11月26日）

本訪問では、たびとほっこり祭の開催時間中に、会場内にて、アンケート調査及びインタビュー調査を行った。先んじて、たびとほっこり祭とは、田人ふれあい館にて開催される、軽トラバザール、特産品・飲食物販売、田人公民館まつり（絵手紙、水墨画、七宝焼、太極拳、スポーツ吹矢、フラダンス）といった出展物をはじめとする地域のお祭りである。（写真10を参照）

調査方法としては、田人ふれあい館のエントランス内に長机を設置し、簡易的なアンケートブースを設け、「田人在住の方向けアンケート」と「田人の外に在住の方向けアンケート」を設置した。（資料[1]、[2]、[3]、[4]を参照）そして、ブースの前を通りかかった方に対して声かけを行い、反応があった方に該当するアンケートを配布し、回答を行ってもらった。（写真11・12を参照）また、アンケート調査と並行して、軽トラバザールエリアにいる方に声をかけ、簡単なインタビュー調査を行った。（写真13を参照）



写真10 ほっこり祭ポスター



写真11 アンケート調査の様子①



写真12 アンケート調査の様子②



写真13 インタビュー調査の様子

#### (4) 受け入れ代表者の方との MTG

受け入れ代表者の方との MTG 内容を以下に記載する。

##### A) 開催スケジュール・議題内容

日付	議題
2023/8/20	オンライン顔合わせ ●自己紹介 ・受け入れ代表者の方の活動紹介 ・当団体の活動紹介 ●会議の頻度 ●9月中の現地訪問日程の調整

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査というより挨拶程度でよいのではないかという提案</li> <li>・9/17に行われるぶどう収穫祭の簡単な説明</li> </ul> <p>●活動の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この時点では未定</li> </ul>
2023/9/4	<p>9/17の現地活動の打ち合わせ</p> <p>●ぶどう収穫体験の詳細確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合時間：9時</li> <li>・集合場所：現地</li> <li>・終了時間(予定)：16時</li> <li>・持ち物：長靴，軍手，帽子，水筒，カップ(雨天時)</li> </ul> <p>●当日の大まかなスケジュール確認</p> <p>9：00 田人地区着</p> <p>収穫班 作業へ</p> <p>昼食支給</p> <p>散策班 自由にまわる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習をもとに散策</li> </ul> <p>16：00(目安) 両班ぶどう園に集合し，受け入れ代表者の方と意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習や散策での気づきなどを共有</li> <li>・11月に行う調査の方向性の決定</li> </ul> <p>19：00 田人地区出発</p> <p>●今後の活動へのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れ代表者の方も田人地区の情報発信ツールの必要を感じる</li> <li>・11月頃には方向性決めて具体的な活動をした方がいい</li> <li>・田人にある株式会社磐城高箸様に訪問するならばアポ取りが必要</li> </ul>
2023/10/30	<p>11/6の現地活動の打ち合わせ／移住者に関して</p> <p>●当日の活動内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の方を集めてヒアリング調査を行う予定だったが調整が難航</li> <li>・自分たちで田人地区を回りながらヒアリング調査する方向に</li> <li>・田人支所長に挨拶をさせていただいた後，田人地区内でヒアリング</li> </ul> <p>●受け入れ代表者の方が感じる移住者の雰囲気について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者がなかなか増えない背景</li> <li>・田人地区は人とのつながりを大切にする地域</li> </ul> <p>●今後の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/26のたびとほっこり祭でもアンケート調査ができるかもしれない</li> <li>・PTA経由で親世代にアンケートとることは可能</li> <li>・泊りがけの活動をした方が田人地区の素を知れる</li> <li>・年明けの1/7に酉小屋という行事もある</li> </ul>
2023/11/13	<p>11/26の現地活動の打ち合わせ</p> <p>●当日の大まかなスケジュール確認</p>

	8：30 田人ふれあい館集合／ブース設営 9：00 たびとほっこり祭／アンケート調査 開始 10：00 ヒアリング調査 開始 13：00 たびとほっこり祭／調査 終了 14：00 おふくろの宿にアンケート設置 15：00 田人地区出発 ●アンケート内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したアンケート用紙(草案)の確認</li> <li>・たびとほっこり祭の実行委員会議が16日にあるためその際に確認</li> </ul>
2023/12/26	活動の報告と提案へのフィードバック

#### (5) アンケート調査について

現地の人々の考えを知るため、アンケートを作成し、調査を行った。対象者を田人住者と田人外住者に分けて作成し、順にアンケート A (資料[2])，アンケート B (資料[3])とした。田人の魅力や移住への印象などを中心とした質問を設定し、質問ごとに5つの選択肢を設けて、客観的に分析できるように作成した。なお、アンケート調査は11/26に行われたほっこり祭の参加者を中心に行ったほか、田人小中学校とおふくろの宿の協力を得て、教員の方やおふくろの宿に訪れた方を対象に、任意で回答して頂いた。(写真14を参照)また、ほっこり祭ではアンケート調査と同時並行でヒアリング調査も行った。次の項にて、その調査結果を示す。



写真14 おふくろの宿に設置したアンケート

## 4. 調査結果

### 4.1 調査結果

アンケート調査とヒアリング調査の結果，アンケート A では 6 件，アンケート B では 51 件の回答が得られた．項目別に集計結果を示す．

#### A) アンケート A・B の共通項目

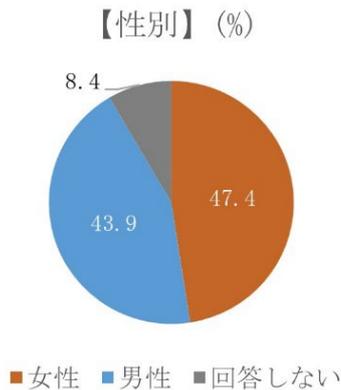


図 2 性別比

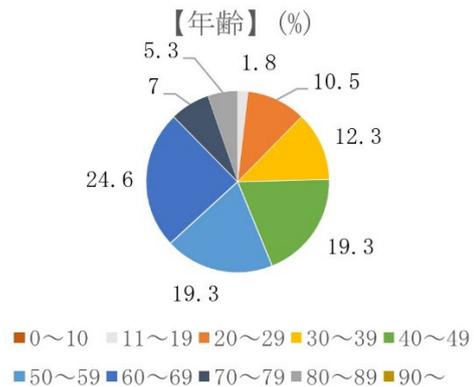


図 3 年齢

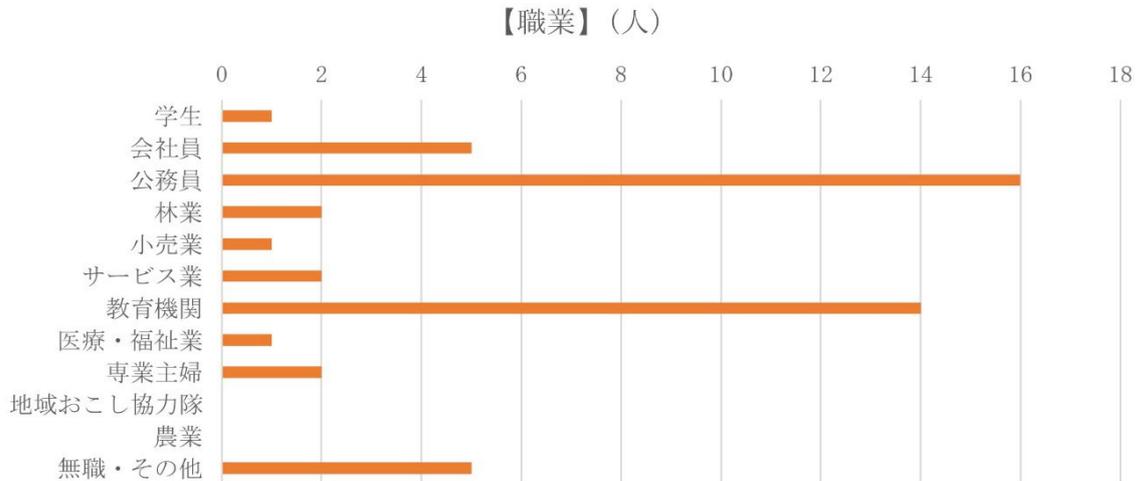


図 4 職業分布

たびとほっこり祭では回答者の多くが中高年層であったが，田人小中学校の教職員の方やおふくろの宿にてアンケートを回答してくださった方の年齢層は 20 代から 30 代の若年層が多かったために，全体としての年齢の分布は，比較的均等となった．（図 2 を参照）

また男女比率もほぼ半々という結果になった．（図 3 を参照）職業の分布については図を参照いただきたい．（図 4 を参照）

B) アンケート A のみの項目

田人地区の住民の生活スタイルを知るために、次の4つの質問項目を用意した。結果を以下に示す。(図5・6・7・8を参照)

【平日の主な活動】 (%)



図 5 日中の活動に関して

【市街地に行く頻度】 (%)

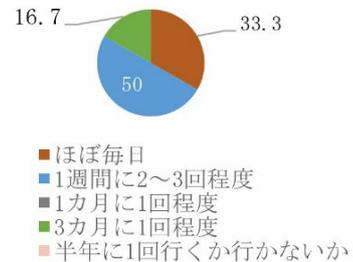


図 6 市街地に行く頻度

【市街地に行く目的】  
(人/複数回答可)

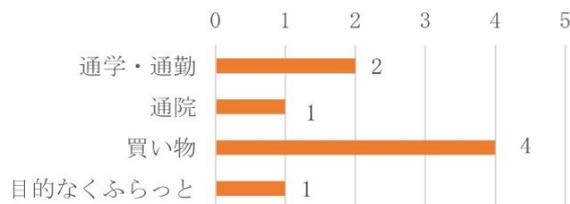


図 7 市街地に行く目的

【田人に住むきっかけ】  
(人/複数回答可)



図 8 田人地区に住むきっかけ

田人地区に住む人に対して、他地域からの移住者に関する意識調査も実施した。以下にその結果を示す。(図9を参照) 6人中5人が移住者に対して前向きであった。また、「移住者に対して特に何も思わない」と回答した住民の方は、特に理由はないと答えた。(図10を参照)

【他の地域からの移住者に対する姿勢について】 (%)



図 9 移住者の受け入れ姿勢



図 1 0 受け入れに無関心・消極的な理由

一方で、移住者に対して寛容的な住民の方々に同様の質問を訊いたところ、以下のような結果になった。また、移住者に期待することは何かを訊いたところ、地域活動への積極的な参加を求める声が多かった。(図 1 1 を参照)

今回は住民の方から得られた回答の数が少なかったため、一概には言えないが、調査結果より、田人地区に移住してきた方に対して抵抗感を持っているというわけではなく、一緒に田人地区を支えていってほしいという思いの方が、強いのではないかと考える。

(図 1 2 を参照)



図 1 1 受け入れに積極的な理由



図 1 2 移住者に期待すること

最後に田人地区の住民が考える、田人地区の好きな点や魅力について、自由回答をしていただいた結果が以下である。(表 2 を参照)

表 2 田人地区の好きな点や魅力

自然が豊かでみどりに触れ合える
地域コミュニティがしっかりしている
自然との共生
子供たちが明るく素直

住民側から見た田人地区の良さを外部に発信し、認知してもらうことで、田人地区に新たな価値が見出されるのではないかと考える。

C) アンケート B のみの項目

田人地区の外に住む人に対しては、同様に普段の生活に関することや、どの程度田人地区と関わりを持っているのかについて訊いた。図 1 3 より、田人地区から近い勿来地区から訪れている方が多いことがわかる。また、その他の内訳には、浪江市や北茨城市も含まれており、いわき市外から来る方もいることがわかった。回答結果を以下に結果を示す。(図 1 3・1 4・1 5・1 6 を参照)

【普段の住まい】 (%)



図 1 3 住まいの分布

【学校・職場のある地域】 (%)



図 1 4 活動地域分布

【田人に訪れたきっかけ】 (%)



図 1 5 田人地区に訪れたきっかけ

【田人に訪れる頻度】 (%)



図 1 6 田人地区に訪れる頻度

次に田人の第一印象についての回答結果を以下に示す。（図 1 7 を参照）



図 1 7 第一印象の分布

そして、第一印象が良かった理由と良くなかった理由を問うために、「うわさ」、「自然環境」、「生活環境」、「特にない」の4つの選択肢を提示した結果が以下である。（図 1 8・1 9 を参照）



図 1 8 いい印象を受けなかった理由



図 1 9 印象が良かった理由

また、田人地区の今の印象についての回答結果が以下である。概ね、良い印象を抱いていることが分かる。（図 2 0 を参照）

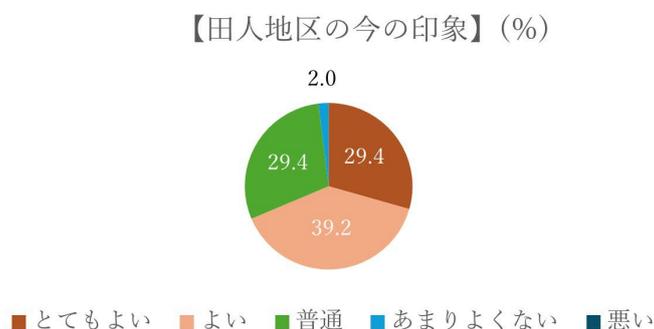


図 2 0 今の印象の分布

そして、印象が良かった理由に関して、具体的なエピソードを自由回答していただいた結果が以下である。（表 3 を参照）豊かな自然や田人地区の住民性に言及する方が多い。

表3 田人地区に良い印象を受けた理由

町の人が学校の教育活動にたくさん関わってくれる
家庭・地域・学校が密接に関わり合っているため
慣れるまで少し時間がかかったが、慣れると皆協力的で優しい方が多い
田人はイベントが多くてとてもよい
食事やぶらっと来たり，自然がありながら町が整備されているところが良い
田人まんじゅうが好き
夏も涼しかったり，紅葉が見れたりする
山菜取りで遠野・田人を訪れて良さを知った

さらに，田人地区へ移住の意思があるか訊いた．ほとんどの人が移住する気はないと答えた一方で，田人への移住に興味がある方や将来田人に移住したいと思っている方がいることがわかる．（図2-1を参照）



図 2-1 移住の意思について

田人地区への移住に興味を示した方に対して，その理由を問うために，「自然環境」，「住民性」，「生活環境」，「交通」，「地域振興（行事参加等）への貢献」という5つの選択肢を提示したところ，以下のような結果が得られた．（図2-3を参照）

【移住先として田人地区を選ぶ決め手になった理由】

(人/複数回答可)



図 2 3 移住先に田人地区を選んだ理由

やはり豊かな自然に惹かれて移住したいと感じる方が多いようである。

また、移住する気がないと回答した方にその理由を問うたところ、生活環境が悪く、移住候補に挙がらないという意見が複数挙げられた。また、自然環境は好きだが、観光程度にとどめて、移住するまではいかないという意見も挙げた。一方で、若ければ田人地区に移住したかったという意見も見受けられた。(表 4 を参照) 田人地区への移住のニーズは限られているものの、移住よりもハードルの低い、田人地区に関わる機会の提供があれば、ニーズがあるのではないかと思った。

表 4 田人地区を移住先として選ばない理由

自然環境的に移住先として選ばない
自然豊かで子育てもののびのびとできそうだが常住するには不便
生活環境が悪く、田人は選ばない・人口減少が悲しい
移住するには生活環境がいまいち
移住は仕事の都合上厳しい
若ければ移住したかった！
生活環境が悪く、移住しようとは思わない
住んでみたいが高齢だとなかなか難しい
住民性で田人への移住を選ばない

そこで、田人地区を訪れるものの移住する気はない、と回答した方を対象に、移住とはまた別の形で地域振興に参加することに対して、どの程度意欲があるのかを調べるために、「田人地区の地域振興に貢献したい」、「行事等に参加したい」、「観光などで訪れたい」、「他の地域の振興には関わっているが、田人地区との関わりは考えていない」、「そもそも地域振興に興味がない」という選択肢を用意し、回答してもらった。(図 2 2 を参照)

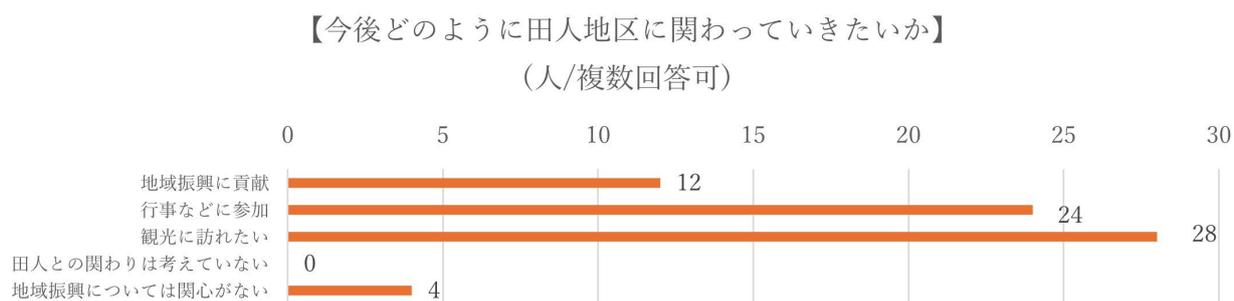


図 2 2 田人地区との関わり方について

この結果より、一定数の人が何かしらの形で田人地区と関わりを持とうとしていることが伺える。田人地区に住む人と外から訪れる人のニーズをうまくマッチングし、制度として形にすることができれば、田人地区を次の世代につなぐためのきっかけになりうるのではないかと考える。

## 5. 調査分析

### 5.1 ブレーンストーミング

2023年9月28日のメンバーミーティングにて、第1回の現地調査を踏まえたブレーンストーミング（BS）及びKJ法を行なった。（写真1・2を参照）まず、ブレーンストーミングとは、短時間でアイデアを複数人で大量に出し合うことであり、基本的には、アイデアを批判や評価をしない、自由にアイデアを出す、質よりも量を重視する、アイデアを結合し発展させるという4つの原則に則って行われる。そして、KJ法とは、ブレーンストーミング（BS）などで集められた断片的なアイデアをグルーピングし、関係性を図解化したのちに、それを最終的には文章で表す手法である。

これらの手法を用いた理由として、本委託事業では対象地区に対して、アイデアを提案し、実行することが一種の到達点とし求められるため、初歩的な段階として、メンバー間で田人地区に対する印象や見方を共有し、言語化し相互に理解を深めることが必要であると考えたからである。

今回のブレーンストーミング（BS）では、「田人には何があるのか」をお題として、関連する様々な単語や文章を出し合った。例えば、「車社会」、「県道105号線」、「国道289号線」、「立派な公民館」、「通信環境が悪い」、「幼稚園や保育所が少ない」、「廃校」、「I・Uターン」、「外部の人材が手厚い」、「こんにゃく」、「施設の従業員は田人に住んでいない」、「住民が優しい」などが集まった。（写真17を参照）

次にKJ法により、各単語を「インフラ」、「教育」、「人材」、「食」、「住民」などグルーピングし、関係性を矢印で表した。なお、矢印の意味としては、例えば、「グループA→グループB」であれば「グループAが原因、グループBが結果」、「グループA←グループB」であれば「グループAとBは関係あり」、「グループA↔グループB」であれば「グループAとグループBは互いに因果的」となる。（写真17を参照）

そして、図解したものからの文章化し、田人地区の現状を、「施設運営者が外部に住んでいる」、「大規模災害時、他の町との連携が取りにくい」、「Uターンなどで戻ってくる人がいる」、「車社会であるためコミュニティが作られづらい」、「子供達に関わる機会が少ない」、「公民館や県道、国道、宿といった活かせるインフラ施設が多く存在する」の6つの文章で田人地区の現状を表した。



写真 1 5

BS と KJ 法を行う様子①



写真 1 6

BS と KJ 法を行う様子②

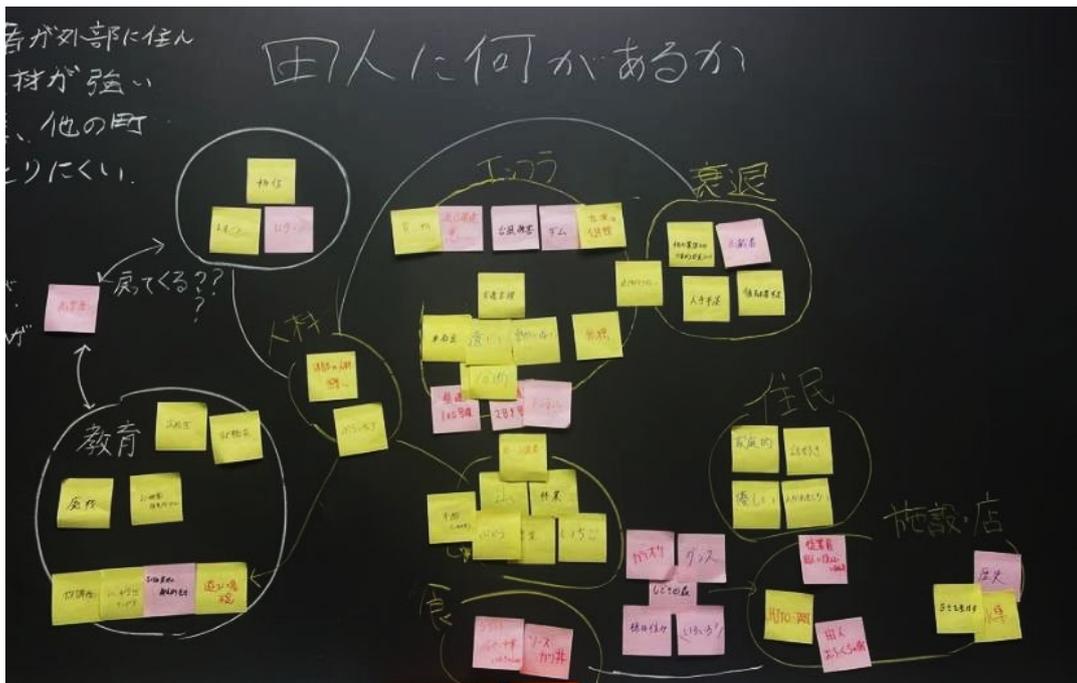


写真 1 7

BS と KJ 法の結果

## 5.2 SWOT 分析

2023年10月12日のメンバーミーティングにて、田人地区についてSWOT分析を行なった。まず、SWOT分析とは、組織や企業で用いられる現状分析手法であり、プロジェクトや組織といった対象の内部的な「強み」と「弱み」、そして、外部環境が対象に与える「機会」と「脅威」の4つの視点から、対象を把握することが可能である。

今回のSWOT分析では、「田人地区」を対象とした。以下が、結果である。

### (1) 田人地区の「強み」

- ・自然環境に恵まれているので観光やアウトドア活動に適している。
- ・市街地に近く、市街地との行き来が必要不可欠なため、アクセスが比較的容易。
- ・道路インフラが整備されており、物流や交通に支障が少ない。
- ・新鮮な野菜や果物を生産し、地域の食品供給源としての価値がある。
- ・田人地区の外に出ていく傾向があり、若者は排他的な意識を持っていない可能性が高い。
- ・田舎への憧れを抱いている人からすれば、理想のまちかもしれない。
- ・十分な土地があり、新しいプロジェクトや農業の機会がある。
- ・Uターンで帰ってくる人が少なからずいる。

### (2) 田人地区の「弱み」

- ・若い世代が積極的な交流機会が不足している。
- ・教育や医療施設が少なく、住民の生活の質が低下している。
- ・田人にしかない特別な魅力が不足し、町への訪問者にとって明確な魅力が見当たらない。
- ・地域内で経済活動を完結するのが難しい。
- ・複数の観光スポットがあるにもかかわらず、アピールが不足している。
- ・交通の制限が存在し、アクセスが制約されている。
- ・店舗や宿泊施設が限られており、観光客の滞在が制約されている。
- ・地元愛が強いため、外部からの訪問者に対する抵抗感がある。

### (3) 田人地区の「機会」

- ・自然環境をテーマとした新しい施設やアクティビティの開発が可能である。
- ・田人の特産品や伝統工芸品を市場に広め、地域経済の発展に貢献できる。
- ・企業誘致や地域への新たな投資により、地域経済の活性化が期待できる。
- ・廃学校などの施設を再活用し、コミュニティ活動や観光資源として活かす可能性がある。

### (4) 田人地区の「脅威」

- ・災害時の交通遮断に備える必要があり、災害への対応力を向上させる必要がある。
- ・日本全体の少子高齢化が進行しており、人口減少と高齢化に対処する必要がある。
- ・住民が外部から見たときの田人の状況を正確に把握しておらず、地域の課題に気付いていない場合がある。

### 5.3 方針案の提示（実態調査から得られた活性化策の効果及び改善点）

私たちは、来年度以降の活動に向けて、今までの調査や分析から、以下のような提案を行った。なおこれらは、便宜上、案に分割して提示を行っているものがあるが、各案を単に実行しようと目指していることを指し示してはいない。よって、それらを構成する要素を、単体もしくはいくつかを組み合わせて、柔軟に検討する必要がある。例えば、「FC制度」における、「デザイン性の良い会員証を発行する」という単体の要素も、地域を知ってもらう、一種の案と言える。

#### (1) FC制度

ファンクラブ制度を設立し、「とにかく田人の存在を知ってもらう」・「田人を気にかけてくれる人を増やす」ことを目的とする・主なコンテンツ内容としてはマイレージ制度とランク制度である

##### (a) マイレージ制度

田人で活動をするほどマイレージが貯まり、マイレージが貯まる例としては、「提携飲食店でのお食事」、「提携店での購入」、「提携施設の利用」、「支所への訪問」、「祭り・行事への参加などがある。

##### (b) ステイタス制度

マイレージ量によってブロンズ・シルバー・プラチナ・ダイヤモンドの4つのステージにランク付けされる。そして、ステイタスごとに特典が決定する。例えば、「提携の飲食店でトッピングやおかわり無料」、「提携の施設の利用が月1回無料」、「記念品プレゼント」などが考えられる。

##### (c) 関連するその他の案

- ・デザイン性の良い会員証を発行する
- ・FC限定イベントの実施
- ・インターネット上での展開であれば特産品の販売をするプラットフォームを兼ねる
- ・インターネット上での展開であれば地域についての記事や紹介といったコンテンツを公開するプラットフォームを兼ねる

##### (d) 検討事項・考察

本提案は「いわきファンクラブ」とは違い、利用者に対する動機づけをマイレージ制度によって行う。また、インターネットプラットフォームとしての構築であると多大な費用がかかるため、スタンプカードのようなものでも良いかもしれない。

#### (2) ワーキングスペースの提供

都市部や中心部に住んでいて自然に触れたい人々を主要な顧客層として、未利用建築物などでワーキングスペースを安価で提供し、田人を知ってもらう、関わってもらう機会を増やすことを目的とする。バーチャルオフィスや地域の仕事や農作業、飲食店の手伝いを通じ

て、リアルな地方暮らしを体験できるワーキングホリデーサービスの機能も提供できたら良いと考え、”ふるさとワーキングホリデー”といった既存のサービスとの連携を図ることも良いだろう。また、ワーキングスペースの提供に当たって未利用建物などのリノベーションを体験イベントとして消化することも良いのではないかと考える。

#### (a) 検討事項・考察

費用に対するリターンが未知数であり、他にも通信環境への対処を検討する必要がある。

#### (3) 基盤となる環境の構築

田人のポータルサイトの構築により、基本情報や観光、食事、イベント情報など田人地区の情報を全て集約することを目指す。加えて、田人の製品や特産物を購入できる機能もよいだろう。また、田人地区に愛着や関心のある人が地域振興に結びつけられるようなプラットフォームの構築も提案として挙げた。

#### (a) 検討事項・考察

しかし、費用負担や誰が継続的に管理を行っていくのか、利用者の想定が現状難しいなど、様々な問題を検討する必要がある。

#### (4) その他

- ・未利用空間や建築物を活用して、BBQスペースや農業の体験、イベント開催スペース、映画撮影誘致を目指す
- ・小中学生の稲作体験をし、収穫した米で餅つき体験などを行う。
- ・農業高校、工業高校などに通う生徒を対象に、実習の地として田人を活用してもらい、田人を知ってもらう、関わってもらう機会を増やす

## 6. 調査のまとめ

### 6.1 感想

以下には，調査を通した班員の感想をいくつか列挙する．

今まで，子供たちとの交流を中心に勿来や植田で地域活性化活動に携わってきたが，今回の事業は，今までやってきた活動よりもさらに論理的なアプローチで，我々大学生がどのように地域振興に貢献出来るのかを検討した．リーダーとしてチームを先導する経験は初めてだったため，試行錯誤を繰り返しながらの活動となった．時には思ったように活動出来ず，もどかしい思いをしたこともあったが，コーディネーターの方を始め，田人の方々が温かく迎え入れてくれたため，1年目の活動を最後までやり遂げることが出来た．来年度は第一線で活動することが難しくなるかもしれないが，後輩のサポートをしつつ，田人の方々と一緒に田人の未来の在り方を探っていきたい．

私が当団体のメンバーとして今まで行ってきた活動は，ボランティアやイベント開催といった即自的な活動であったため，「大学生の力を活用した集落復興支援事業」での，調査や分析といった論理的かつ継続的な実地活動は，大いなる学びとなり，良い機会となったと感じる．また，私は地域での関わりが希薄で，同年代に限った関わりが多い生活を過ごしていたために，本事業での実地調査を通じて，地域の方々の温かさや親しみやすさに触れることができたことは大変喜ばしく，福島県に対してより愛着を持つことができた．

集落事業の活動を通して日本で話題になっている集落の存続危機について実際にお話や体験を通してより深刻だと感じた．これからどうあるべきかを集落の特徴を捉えながら考え提案できたと思う．田人だけではなくたくさんの地域がこのような現状に陥っていると考えるとより大学で学んでいることを生かして貢献したいと思うようになった．今後もこのような活動は大切だと思うのと同時に，この集落問題を解決するような企画や解決策を実際に行うことが出来れば尚良いと思う．

今回の集落復興支援事業に参加させていただくまでは，対象とする地区を調べる際にインターネット上でその土地の特徴などを調べるということをしてきましたが，実際に現地に足を運び，その土地の方と触れ合うということは初めてだったため，とても新鮮で，貴重な経験となりました．インターネット上だけでは知ることができない，地域の方々の生の声を聞くことができ，地域活性化には地域内外のどちらの意見も大切にしていけることが必要であると感じました．今後の活動に今回の貴重な経験を活かしていきたいと考えています．

事前調査では時間をかけて調べたつもりであったが，活動の方針をどのように立てればいいのか悩むこともあった．しかし現地で地域の方々にお話を伺ったり，アンケートを実施したりしたことで，田人の魅力やどのように活かしていきたいかなどの見通しをもつことができた．来年度はこの一年間の活動をより良い形で活かしていけたらと思う．

今年度の事業活動は，私にとって非常に有意義な経験となった．活動を通して，地域分析やヒアリング・アンケート調査，課題発見，提案といった貴重な体験ができた．住民の方々

にはインタビューやアンケートに気さくに答えていただき、田人の方々の温かさにふれられたことも非常に良い経験となった。一年間活動して、コーディネーターの方のサポートや地域住民の方々の協力があったからこそ、この事業が成り立つのだと実感した。来年度からは自分たちが中心となって、主体的に活動できるよう取り組みたい。また、この縁を大切に田人地区と継続的に関わっていききたい。

## 6.2 来年度に向けて

今年度は田人で泊りがけの調査ができなかったこともあり、住民の方と関わる時間が少なく、住民の方がどんな田人を求めているのかを探り切れなかった。そのため、来年度は田人に泊まって、まずは住民の方々と親睦を深めることを目標にし、その上で我々が考えた提案が田人のために必要なものなのかどうかを吟味していきたい。

## 6.3 謝辞

本調査の実施に伴い、コーディネーターとして田人町と我々を結びつけてくださった受け入れ代表者の方をはじめ、ヒアリング調査およびアンケート調査の実施にご協力いただいた田人支所の職員の皆様、田人小中学校の教員の皆様、おふくろの宿の職員の皆様、そして回答してくださった皆様、さらにぶどう収穫体験をさせていただいた田人ぶどう研究所様におかれましては、お忙しい中ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

貴重なご意見やご尽力により、本調査は円滑に進行し、有益な結果を得ることができました。地域の皆様から頂戴した情報は、今後の事業活動に活かさせていただきます。

再度、皆様に深く感謝いたします。

## 7. 資料

### [1] アンケート概要ポスター



はじめまして！  
私たちは、芝浦工業大学の  
『笑顔のまち なこそプロジェクト』  
という団体です！

当団体は、福島県が行っている  
『大学生の力を活用した集落復興支援事業』  
に参加させていただいておりました、  
この度、田人町に入らせていただくこと  
になりました。大学で学んだ知識を  
活かしつつ、田人の未来のカタチを  
皆さんと一緒に考えていきたいと  
思っております。

まずはその一歩として、  
皆さんにアンケートへのご協力  
をお願いしたいと思っております。

アンケートと聞くと気難しさを  
感じる方もいるかもしれませんが、  
ぜひ肩の力を抜いてお答えください！

※イラストは田人まんじゅうから着想を得て作らせていただきました

僕たちの普段の  
活動の様子は  
ここから見る事が  
できるよ！

事業の詳しい概要は  
右下のQRコードから  
確認することが  
できるよ！



当団体Instagram



当団体X(旧Twitter)



福島県HP 該当ページ

## 大学生事業アンケート調査 1

回答日

ご協力ありがとうございます!

年 月 日

2023 / /



### 回答方法

各設問において該当する評価に✓をつけてください。

※一部記述あり

(例)

まったく  
満足していない

満足していない

特に何も思わない

満足している

とても  
満足している



### 属性

性別



男性



女性



答えたくない

年齢



0 - 10



11 - 19



20 - 29



30 - 39



40 - 49



50 - 59



60 - 69



70 - 79



80 - 89



90 -

職業

(任意回答/複数回答可)



学生



会社員



公務員



地域おこし協力隊



農業



林業



小売業



サービス業 (飲食・宿泊業他)



教育機関



医療・福祉業



専業主婦



無職・その他



職業に関しては任意です!

## 大学生事業アンケート調査1-A①

1. 平日の主な活動を教えてください

気軽に教えてくださいね!



仕事/家事

趣味

町内会活動

特に何もしない

その他

(その他)

2. 勿来町や植田町など市中心部に行く頻度はどの程度ですか？

半年に1回行くか  
行かないか

3ヶ月に1回程度

1カ月に1回程度

1週間に2-3回

ほぼ毎日

3. どんな目的で市中心部に行きますか？ (複数回答可)

通学/通勤

通院

買い物

目的なく  
ふらっと行く

その他

(その他)

4. 田人に住むきっかけは何ですか？ (複数回答可)

田人で  
生まれ育った

結婚

田人に  
親戚・友人がいる

職場が  
田人にある

田人の環境に  
魅力を感じて

その他

(その他)

アンケートは次のページに続きます

## 大学生事業アンケート調査1-A②

### 5. 他の地域からの移住者に対してどんな思いを抱いていますか？

- まったく受け入れられない  ①      あまり受け入れたくない  ②      特に何も思わない  ③      そこそこ受け入れたい  ④      積極的に受け入れたい  ⑤

#### 5A. 前問で1,2,3を選んだ方へ

次のうち、前問においてその回答を選んだきっかけはありますか？（複数回答可）

- 移住者が地域活動に消極的       移住者に伝統や歴史への配慮が見られない       移住者が田人に貢献する様子がない       そもそもあまり関わっていない       特に理由はなくなんとなく

(その他のきっかけ)

#### 5B. 前問で4,5を選んだ方へ

次のうち、前問においてその回答を選んだきっかけはありますか？（複数回答可）

- 移住者が地域活動に積極的       移住者に伝統や歴史への配慮が見られる       移住者が田人に貢献する活動をしている       地域住民に寄り添ってくれる       特に理由はなくなんとなく

(その他のきっかけ)

移住者に対して期待することはありますか？（複数回答可）

- 地域活動への積極的参加       伝統や歴史の伝承       田人と外部の架け橋的な役割       田人の再生       田人住民であればそれで十分

(その他の期待)



ラストスパート!!

アンケートは次のページに続きます

## 大学生事業アンケート調査1-B①

### 1. 普段のお住まいはどちらですか？

気軽に教えてくださいね！



- 勿来                  遠野                  小名浜                  平                  その他
- 

(その他)

### 2. 職場のある地域をお答えください。

- 田人                  勿来                  小名浜                  遠野                  その他
- 

(その他)

### 2. 田人町と普段どのような関わりがありますか？

- 職場が                  田人に                  定期的に田人に                  関わりはあるが                  普段は  
田人にある                  親戚・友人がいる                  買い物しに来る                  ここに当てはまらない                  関わりがない
- 

(当てはまるものがなかった方)

### 3. 田人町を訪れる頻度はどの程度ですか？

- 半年に1回以下    3ヶ月に1回程度    1カ月に1回程度    1週間に2-3回    ほぼ毎日
- 

アンケートは次のページに続きます

## 大学生事業アンケート調査1-B③

5. 今の田人の印象はどのようなものですか？

- 悪い      あまりよくない      普通      よい      とてもよい
- ①                      ②                      ③                      ④                      ⑤

5A. 前問で1,2を選んだ方へ

次のうち、前問においてその回答を選んだ理由や背景はありますか？（複数回答可）

- 自然環境      住民性      生活環境      特にない
- 

（回答にまつわる具体的なエピソードがあれば教えてください）

交通の便が悪かったという理由なら、「生活環境」にチェックしてください！



5B. 前問で3,4,5を選んだ方へ

次のうち、前問においてその回答を選んだ理由や背景はありますか？（複数回答可）

- 自然環境      住民性      生活環境      特にない
- 

（回答にまつわる具体的なエピソードがあれば教えてください）

住民の方がとっても優しくかったという理由なら、「住民性」にチェックしてください！



ラストスパート!!

アンケートは次のページに続きます



## 大学生事業アンケート調査1-B④

### 6. 田人町への移住に対してどのように考えていますか？

- 移住する気はない      ①
- 他の地域であれば  
移住を検討中  
または  
する予定      ②
- 田人への移住に  
興味がある      ③
- 将来田人に移住し  
たいと思っている      ④
- 田人に移住  
することが  
決まっている      ⑤

#### 6A. 前問で1を選んだ方へ

今後どのように田人に関わっていきたいですか？（複数回答可）

- 地域振興に  
貢献はしたい      〇
- 行事などには  
参加したい      〇
- たまたま  
観光に訪れたい      〇
- 田人との関わり  
は考えていない      〇
- 田人に限らず  
地域振興については  
特に何も  
考えていない      〇

#### 6B. 前問で2を選んだ方へ

次のうち、移住先として田人を選ばなかった理由がありますか？（複数回答可）

- 自然環境      〇
- 住民性      〇
- 生活環境      〇
- そもそも候補に  
挙がらなかった      〇

（差し支えなければ、検討しているもしくは決定している移住先を教えてください）

#### 6C. 前問で3,4,5を選んだ方へ

次のうち、移住先として田人選ぶ決め手になった項目はありますか？（複数回答可）

- 自然環境      〇
- 住民性      〇
- 生活環境      〇
- 交通      〇

回答は調査のみに使用し、第三者に提供することはありません。  
最後までご協力いただき、ありがとうございました！



## 8. 参考文献

- [1] いわき市, 田人支所 | いわき市役所,  
<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/genre/1452052891496/index.html>,  
(2024年2月22日閲覧)
- [2] いわき市, 田人地区,  
<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000004088/simple/12tabito.pdf>,  
(2024年2月22日閲覧)
- [3] いわき市, いわき市観光サイト, <https://kankou-iwaki.or.jp/>,  
(2024年2月22日閲覧)
- [4] 福島県いわき市地図 | Map-It,  
[https://map-it.azurewebsites.net/Map/%E7%A6%8F%E5%B3%B6%E7%9C%8C\\_\\_\\_%E3%81%84%E3%82%8F%E3%81%8D%E5%B8%82/highlight](https://map-it.azurewebsites.net/Map/%E7%A6%8F%E5%B3%B6%E7%9C%8C___%E3%81%84%E3%82%8F%E3%81%8D%E5%B8%82/highlight),  
(2024年2月26日閲覧)
- [5] 福島観光情報サイト ふくしまの旅, 酉小屋【小正月行事】,  
<https://www.tif.ne.jp/jp/spot.html?spot=5971%E3%80%81>,  
(2024年2月22日閲覧)
- [6] Ameba ブログ 田人町地域おこし協力隊ブログ -まいにち, たびと-, 酉小屋@田人町,  
<https://ameblo.jp/tabitonohibi/entry-12342840571.html>,  
(2024年2月22日閲覧)